

檜枝岐小中学校 生活科教育全体計画

めざす児童生徒の姿

小学校
◇自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物等との関わりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えることのできる児童。 ◇具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身につけることのできる児童。 ◇3年生以上における理科、社会科、総合的な学習の時間へつながる基礎的事項を身につけることのできる児童。



めざす児童生徒を育てる、2年間連続して取り組む学習スタイル

気づきの質を高める指導の工夫	学びを深めるための合科的指導
○身近なひと、もの、ことに繰り返し関わり、多様な学習活動を取り入れることで得られる「実感的な気づき」を重視する。 ○児童の「伝えたい」「見つけたい」「知りたい」などの思いや願いを重視し、伝え合う楽しさを実感させる。 ○見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫する。	○国語科、音楽科、図画工作科との関連を積極的に図り、体験したことを言葉、動作、絵などで表し、振り返りやまとめにつなげるなど、指導の効果を高める。 ○一つの単元の中で複数の教科の目標や内容を組み合わせることで、教科のねらいをより効果的に実現する。 ○見取ったことに共感したり、意味付けしたり、価値付けしたりして、児童に返し、児童が自身の良さや成長を実感できるようにする。 ○家庭と連携して、動植物の世話やお手伝いなどに児童が継続的に取り組もうとする意識を高める。



改善すべき児童生徒の実態

小学校
■楽しく学習に取り組むが、そこでの体験を心の良さや自分自身の成長など更なる気づきにつなげることが不十分である。 ■学習したことに継続して取り組んでいくことが十分にできていない。